

話 題



度は田植えもしたいわ 消費者稲刈り体験ツアー

首都圏などの消費者が稲刈り体験を、九月十九日、白根市農協を訪れました。これは日本農業新聞が消費者向けに発行している「みどり」という新聞の読者交流の一環として企画されたもの。東京都や千葉県などから三十一人が参加しました。

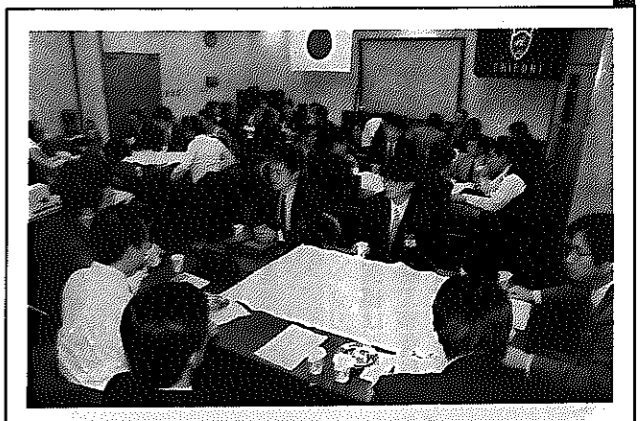
この日は高井野生産組合のほ場でコシヒカリの稲刈りを体験。農協営農指導員や生産組合員から、かまの持ち方や稲の縛り方などを教えてもらい、田んぼに入ります。さわやかな秋空の下、参加者たちは「今度は田植えもしたいわ」と額に汗を光らせながら、声を弾ませていました。



のまちづくりを市民運動に 青年会議所

白根青年会議所が主催する第三回まちづくりフォーラム「緑の会談」が、十月十八日、カルチャーセンターで開かれました。フォーラムには花いっぱい運動の実施団体の代表なども参加。スライド上映と講演の後、五つのグループに分かれてディスカッションしました。

この催しは同会議所が進めている国道8号のポプラ並木づくり（グリーン・トビアルト8構想）を、市民運動に広げていきたいと開催したものです。参加者たちはPRの方法や、今後の維持管理の問題など、熱のこもった議論を続けていました。



ジャンボヘチマにびっくり 山崎興野 笠原春吉さん

山崎興野の笠原春吉さん宅のジャンボヘチマ、何と長さが約一メートル四十センチあります。中学一年生の喜美子さんが、昨年小学校から種をもらい、それをまいたところ、そのうちの一本がどんどん大きくなりました。「地面に届きそうになると、つるにつつかえ棒をし、それでも足りなくて、台をしたり」と笠原さん。近所からは種の予約も無い込んでいます。

理科教育センターでは「大きいものでは二メートルを超えたという記録も残っていますが、土壌や管理が良く、種も大きくなる性質のものだったのでしょう」と話しています。



ウワイでっけー芋だ 青年農業会議 農業体験学習

青年農業会議（田中義清会長）主催の「農業体験学習と交流会」が十月六日、あいにくの雨空の中で行われました。

参加したのは、新潟市の鏡淵小学校の児童父兄百余人。稲刈り体験の後、お楽しみの芋掘り会場へ。初めてじゃないという子供たちも、掘り出した芋の大きさにびっくり。「でっけー」と歓声を上げながら泥んこになって楽しんでいました。この後交流会が持たれ、消費者と生産者の立場での、活発な意見交換が行われました。青年農業会議では来年もこの催しは続けたいと話しています。



の



員獲得活動を論議 長野県茅野市の青年が来市

長野県茅野市の青年一行九人が、九月二十三日本市を訪ね。本市や湯東村の青年たちと青年教育センターで交流研修会を行いました。訪れた茅野市の青年たちは、スポーツサークルや音楽サークルのリーダーなど。交流研修会では「会員が減少傾向にある中で、会員獲得活動をどう進めるか」について、真剣な話し合いが行われました。会場を移した懇親会では、茅野市の青年たちが寸劇を披露。蓼科高原や白樺湖、八ヶ岳などの観光パネルを使い、面白おかしく茅野市を紹介。懇親会場は大いに盛り上がっていました。



健やかな成長を誓う 子供の心を育てるセミナー

妊婦健康教室の一環として「子供の心を育てるセミナー」が九月二十六日、保健センターで開かれました。このセミナーには、妊娠中や幼児を持つお母さん二十三人が出席。県保育専門学院講師の二瓶武子さんの「みんな輝け・胎児のころから心が育つ」と題した講演に、熱心に耳を傾けます。具体的な事例を挙げ、胎教とはお母さん自身の豊かな思いと動きであること、胎児にできるだけの刺激を与えることなどの講義や胎教の歌と体操の指導を受け、参加者たちは、安産と子供の健やかな成長を誓い合っていました。



ち

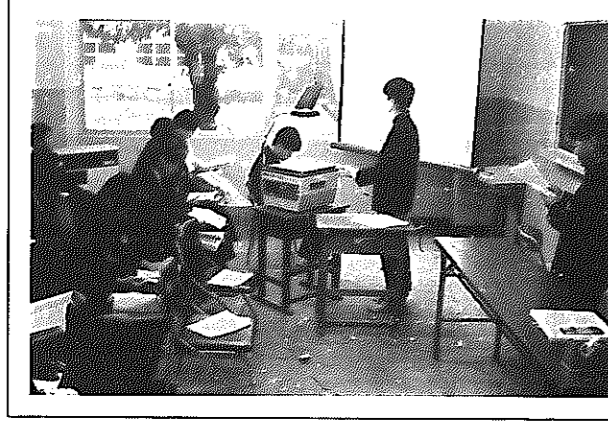


やっぱり緊張しちゃった 児童生徒科学 研究発表会

白根地区児童生徒科学発表会が十月八日、教育委員会庁舎で行われました。市内と小須戸町の小中学校十八校から、約八十人の児童生徒が参加。夏休みの自由研究の成果を表やグラフを使って発表しました。

茨曾根小学校から参加した栗田隆広君（三年生）は「友達と四人でヘチマの葉の大きくなる様子を研究したんだけど、発表は緊張しちゃった」と、発表が終わってほっとした表情で話してくれました。

今回発表された中から選ばれた優秀作品は、十月十三日に行われる県の科学発表会に参加します。

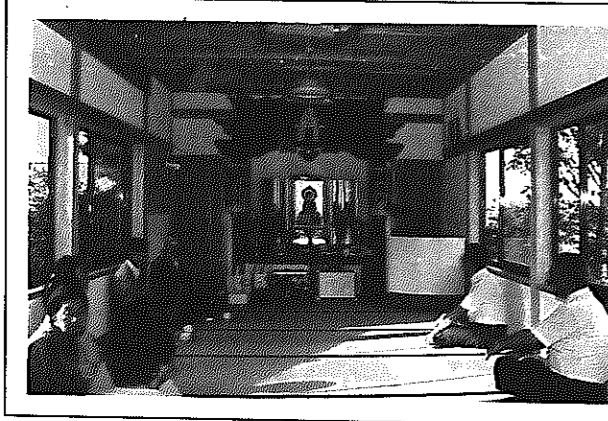


お地蔵様の新居完成 赤渋 地蔵堂改築

下赤渋の地蔵堂の改築と、お地蔵様の化粧直しが終わりました。それを祝う落成式が九月二十四日、同地蔵堂で行われました。

ここに祭られているお地蔵様は、いつごろかは不明ですが赤渋地区に流れ着いたものだそうで、木像の大変珍しいもの。化粧直しの際に作者やその時代の手掛かりを探しましたが、残念ながら分かりませんでした。

新しいお堂で、金箔も張り替えられた厨子に納まったお地蔵様は、優しくほほ笑んでいるよう。地元のお年寄りも「きれいな所で拝めて幸せです」と喜んでいました。



ま